



平成29年12月期 決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 オエノンホールディングス株式会社
コード番号 2533 URL <http://www.oenon.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西永 裕司

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 牛込 真澄

TEL 03-3575-2777

定時株主総会開催予定日 平成30年3月23日 配当支払開始予定日

平成30年3月26日

有価証券報告書提出予定日 平成30年3月23日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期	78,739	0.6	1,853	10.9	1,906	1.3	1,263	106.8
28年12月期	79,212	3.8	2,079	28.4	1,882	32.4	610	156.8

(注) 包括利益 29年12月期 1,271百万円 (77.2%) 28年12月期 717百万円 (24.9%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
29年12月期	20.82		6.7	3.6	2.4
28年12月期	9.75		3.3	3.4	2.6

(参考) 持分法投資損益 29年12月期 百万円 28年12月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期	54,463	21,300	35.2	317.39
28年12月期	52,310	20,940	35.9	302.50

(参考) 自己資本 29年12月期 19,180百万円 28年12月期 18,761百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
29年12月期	3,122	1,973	1,703	1,329
28年12月期	3,224	535	2,468	1,883

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
28年12月期				7.00	7.00	434	71.8	2.3
29年12月期				7.00	7.00	426	33.6	2.3
30年12月期(予想)				7.00	7.00		42.3	

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,000	1.6	1,950	5.2	1,950	2.3	1,000	20.8	16.55

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 有
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期	65,586,196 株	28年12月期	65,586,196 株
期末自己株式数	29年12月期	5,155,093 株	28年12月期	3,566,982 株
期中平均株式数	29年12月期	60,678,607 株	28年12月期	62,673,743 株

(参考)個別業績の概要

平成29年12月期の個別業績(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期	2,540	1.8	242	59.3	166	57.8	85	
28年12月期	2,585	15.2	595	48.3	394	58.8	507	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期	1.42	
28年12月期	8.09	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
29年12月期	33,939		16,323		48.1		270.12	
28年12月期	32,817		17,106		52.1		275.82	

(参考) 自己資本 29年12月期 16,323百万円 28年12月期 17,106百万円

決算短信は監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想の将来に関する記述は、業績に与える不確実な要因に係る仮定及び本日現在における入手可能な情報を前提としており、実際の業績等は様々な要因等で大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関しましては、3ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析(2)次期の見通し」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 次期の見通し	3
(3) 財政状態に関する分析	4
(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(5) 事業等のリスク	5
2. 企業集団の状況	6
3. 経営方針	8
(1) 会社の経営の基本方針	8
(2) 目標とする経営指標	8
(3) 中長期的な会社の経営戦略	8
(4) 会社の対処すべき課題	9
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	9
5. 連結財務諸表	10
(1) 連結貸借対照表	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	19
(継続企業の前提に関する注記)	19
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	19
(会計方針の変更)	21
(表示方法の変更)	21
(会計上の見積りの変更)	21
(追加情報)	21
(連結貸借対照表関係)	22
(連結損益計算書関係)	23
(連結株主資本等変動計算書関係)	24
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	26
(セグメント情報等)	26
(1株当たり情報)	28
(重要な後発事象)	28

○決算参考資料

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

(当期の経営成績)

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外社会情勢の緊迫化による不確実性や金融資本市場の変動などのリスクがあるものの、企業業績や雇用情勢の改善を背景に個人消費が持ち直しつつあります。日経平均株価も高い水準にあり、さらなる景気回復が期待される状況で推移いたしました。

このような経営環境の下、当社グループは「長期ビジョン100」の実現に向けた「中期経営計画2020」を策定し、当社グループの持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上に向けた取組みを進めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、78,739百万円(前期比0.6%減)となりました。利益面では、営業利益は1,853百万円(前期比10.9%減)、経常利益は1,906百万円(前期比1.3%増)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は1,263百万円(前期比106.8%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

<販売実績>

セグメントの名称	アイテム(主要製品)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日) (百万円)	前期比 (%)	
酒類	和酒部門	焼酎	39,631	100.5
		チューハイ	6,517	91.3
		清酒	5,431	91.9
		合成清酒	3,001	93.9
		販売用アルコール	7,526	102.1
		みりん	480	93.4
		62,588	98.5	
	洋酒部門	6,648	101.3	
	その他の部門	1,213	97.6	
	70,450	98.7		
加工用澱粉		3,772	94.7	
酵素医薬品		4,162	118.2	
不動産		334	101.6	
その他		20	95.9	
	合 計	78,739	99.4	

【酒類事業】

酒類事業については、国内の人口減少や少子高齢化により市場の伸張が期待しにくく、企業間の販売競争も激化しております。また、6月に施行された改正酒税法による消費活動への影響も懸念されております。このような環境の下、消費者の嗜好の変化や多様化に対応すべく商品の拡充を行いました。売上高は70,450百万円(前期比1.3%減)となりました。利益面につきましては、211百万円の営業利益(前期比70.8%減)となりました。

和酒部門のうち焼酎においては、本格焼酎の「博多の華」シリーズ、甲類焼酎の「北海道ビッグマン」シリーズ、甲類乙類混和焼酎の「すごむぎ」「すごいも」などが好調に推移し、売上高は前年並みとなりました。発売25周年を迎えたしそ焼酎「鍛高譚(たんたかたん)」では、ブランドの認知拡大に向けた施策として、WEB動画による動画広告の公開のほか、音楽ロックフェスティバルへの販売ブースの出店を行いました。また、炭酸割り試飲缶「全力しそー」を配布し、飲み方を訴求するサンプリングイベントでは、大きな反響をいただきました。発売35周年を迎えた本格焼酎の「博多の華 むぎ」シリーズでは、消費者キャンペーンを実施するなど、積極的に販売促進活動を展開いたしました。

チューハイ、カクテル等の低アルコール飲料においては、全国のご当地素材を使用したチューハイ「NIPPON PREMIUM」シリーズが好調に推移いたしました。PB商品の減少により売上高は減少いたしました。

5月に発売した北海道限定の「ビッグマンなまらチューハイ」は、地域におけるブランドの高さを活かした展開を進めております。

清酒においては、市場の低迷が続いておりますが、純米吟醸酒でありながらお手頃な価格を実現した「福徳長 米だけのす〜っと飲めてやさしいお酒 純米吟醸酒」パックが好調に推移しております。

アルコールについては、甲類焼酎等に使用される酒類原料用アルコールが増加したため、売上高は増加いたしました。

これらの結果、和酒部門の売上高は前期に比べ減少いたしました。

洋酒部門においては、輸入ワインの売上高は減少したものの、「ウイスキー 香薫(こうくん)」やPB商品のウイスキー等が好調に推移したことにより、売上高は増加いたしました。

その他、日本初の本格的ワイン醸造場として開設し、来年で115年目を迎えるシャトーカミヤの名称を「牛久シャトー」に変更いたしました。茨城県牛久市を代表するランドマークとしての役割を担い、地域への貢献活動、文化的活動をさらに発展させ、地元根付いた事業を展開してまいります。

【加工用澱粉事業】

加工用澱粉事業については、シリアル食品用の販売数量が増加したものの、ビール用グリッツなどが減少したため、売上高は3,772百万円(前期比5.3%減)、営業利益は241百万円(前期比31.5%減)となりました。

【酵素医薬品事業】

酵素医薬品事業については、酵素部門における海外での販売が好調に推移したこと、国内の生産支援ビジネスが増加したことなどにより、売上高は4,162百万円(前期比18.2%増)、営業利益は1,155百万円(前期比50.3%増)となりました。

【不動産事業】

不動産事業については、売上高は334百万円(前期比1.6%増)、営業利益は234百万円(前期比2.9%増)となりました。

(2) 次期の見通し

今後のわが国の経済は、海外経済の緩やかな成長の下で、緩和的な金融環境と政府の経済対策による下支え等を背景に、景気の拡大が続くと予想されます。設備投資につきましては、緩和的な金融環境や成長期待の高まり、オリンピック関連投資の本格化、人手不足に対応した省力化投資等から、増加を続けるものと思われまます。個人消費につきましても、雇用・所得環境の改善がなされ、緩やかな増加傾向を続けるものと期待されます。

酒類業界におきましては、人口減少・少子高齢化による市場の縮小や消費の二極化・複層化が進み、企業間の販売競争が益々激化し、当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増すと考えられます。

このような厳しい経営環境の下、当社グループは、創立100周年を迎える2024年に向けた中長期戦略である「長期ビジョン100」の実現、その第一ステップとなる「中期経営計画2020」の達成に資するグループ経営方針を掲げ、引き続き当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の最大化を目指してまいります。

次期の見通しに関しましては、連結売上高80,000百万円(前期比1.6%増)、連結営業利益1,950百万円(前期比5.2%増)、連結経常利益1,950百万円(前期比2.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,000百万円(前期比20.8%減)を予定しております。

(3) 財政状態に関する分析

①資産、負債および純資産の状況

当連結会計年度の総資産につきましては、54,463百万円となり、前連結会計年度末と比較し2,153百万円の増加となりました。これは主に設備投資等による有形固定資産の増加によるものであります。

負債につきましては、33,163百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,794百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加によるものであります。

純資産につきましては、21,300百万円となり、前連結会計年度末と比較して359百万円の増加となりました。これは主に自己株式の取得による減少がありましたものの、利益剰余金の増加によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は1,329百万円となり、前連結会計年度末と比較して554百万円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにおける資金の増加額は、3,122百万円(前期比101百万円減)となりました。これは主に売上債権の増加額662百万円等がありましたものの、未払酒税の増加額457百万円のほか、減価償却費1,560百万円等を計上したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローについては、固定資産の取得による支出1,932百万円等がありましたので、1,973百万円(前期比1,438百万円減)の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローについては、長期借入金の返済による支出810百万円、配当金の支払額434百万円等がありましたので、1,703百万円(前期比765百万円増)の資金減少となりました。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは以下のとおりであります。

	平成27年12月期	平成28年12月期	平成29年12月期
自己資本比率 (%)	32.7	35.9	35.2
時価ベースの自己資本比率 (%)	24.5	30.7	41.1
キャッシュ・フロー対有利子負債率 (年)	2.4	2.4	2.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	23.5	25.7	30.5

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。

※営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、株主に対する利益還元を最重要政策の一つとして位置づけております。この政策の下、当社の業績、連結決算の状況、中長期的な収益状況、設備投資計画、適正な内部留保額、配当性向などを総合的に勘案しながら、継続的・安定的な配当を行い、かつ中期的には配当金を漸増させていくことを基本方針としております。

この方針に基づき、当期の配当金につきましては、前期と同様1株当たり7円とさせていただくことを予定しております。

また、次期の配当金につきましても1株当たり7円を予定しております。

(5) 事業等のリスク

最近の有価証券報告書（平成29年3月23日提出）における記載から、新たに顕在化した速やかに伝達すべきリスクはありませんので、記載を省略いたします。

なお、当該有価証券報告書は、次のURLからご覧いただくことができます。

（当社ホームページ）

<http://www.oenon.jp/ir/data/valuable.html>

（金融庁ホームページ EDINET）

<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>

2. 企業集団の状況

当社グループは、当社及び当社の子会社10社で構成され、セグメントとの関連は次のとおりであります。

(1) 酒類事業

当事業に係る連結子会社は8社であり、焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒、ワイン、酒類原料用アルコール・工業用アルコール等の販売、運送・荷役及び飲食業を行っております。

焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒については、主として合同酒精(株)、福德長酒類(株)、富久娘酒造(株)、秋田県醗酵工業(株)、越の華酒造(株)が製造し、合同酒精(株)、福德長酒類(株)、富久娘酒造(株)、秋田県醗酵工業(株)、越の華酒造(株)、(株)ワコーが主として販売しております。

ワイン等については、合同酒精(株)、山信商事(株)が主として販売しております。

運送・荷役は、ゴーテック(株)が行っております。

主な商品は以下のとおりであります。

	合同酒精(株)	福德長酒類(株)	富久娘酒造(株)	秋田県醗酵工業(株)	越の華酒造(株)
焼酎	ビッグマン グランブルー 鍛高譚 海渡シリーズ すごいも すごむぎ	博多の華 さつま美人		そふと新光 米蔵	
チューハイ	直球勝負 NIPPON PREMIUM HOLICシリーズ				
清酒	大雪乃蔵 北の誉	福德長 す〜っと飲めてやさ しいお酒 蔵人の譽	富久娘 力	一滴千両 小野こまち おもてなし	越の華 カワセミの旅
合成清酒	元禄美人 花の友			とんとん拍子 酔友達	
洋酒	ネプチューン 鶯宿梅 鍛高譚の梅酒 電気ブラン Sweets Bar ブトーセレクション				

飲食業については、合同酒精(株)が行っております。

(2) 加工用澱粉事業

当事業に係る連結子会社は1社であり、加工用澱粉の販売を行っております。

加工用澱粉については、(株)サニーメイズが製造し、販売しております。

(3) 酵素医薬品事業

当事業に係る連結子会社は1社であり、酵素、原薬、診断薬の販売を行っております。

酵素、原薬、診断薬については、合同酒精(株)が製造し、販売しております。

(4) 不動産事業

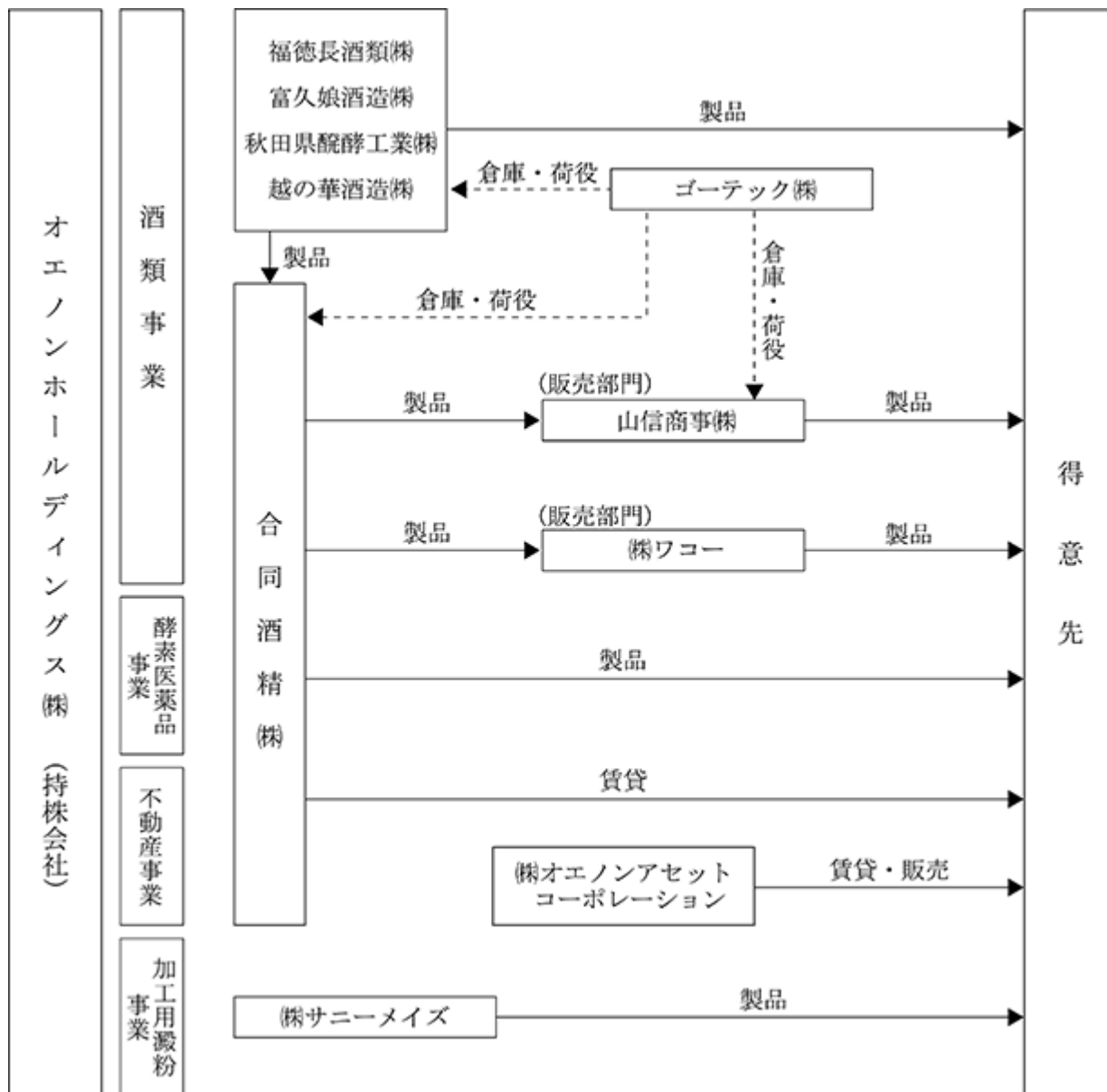
当事業に係る連結子会社は2社であり、不動産の売買及び賃貸を行っております。

不動産の売買及び賃貸については、当社、合同酒精(株)、(株)オエノンアセットコーポレーションが行っております。

なお、当社は特定上場会社等に該当し、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準のうち、上場会社の規模との対比で定められる数値基準については連結ベースの計数に基づいて判断することとなります。

事業系統図

事業の系統図は次のとおりであります。なお、下記に挙げる会社は全て連結子会社であります。



なお、富久娘酒造株式会社は平成30年1月1日付でオエノンプロダクトサポート株式会社に変更しております。

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「自然の恵みを活かし、バイオ技術をベースに、人々に食の楽しさと健やかなくらしを提供します。」というグループ企業理念の下、酒類や酵素医薬品等の分野において、発酵技術を核とする「バイオテクノロジー」をベースとした事業を展開しております。

その中において、当社グループは、お客様に「安心」・「安全」をお届けすることを第一に考え、グループの普遍概念である「顧客志向」・「収益志向」に則り事業活動を行い、併せて「将来価値の共創」に資する取組みを進め、経営品質の向上、ひいてはグループの持続的成長及び中長期的な企業価値最大化を目指しております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、効率性指標を向上させながら収益体質の構築と財務体質の基盤強化を目指しております。具体的な経営指標としては、基本的な指標である営業利益、経常利益や当期純利益の拡大を図るとともに、一定規模のフリー・キャッシュ・フローの確保、株主資本の充実を目標としております。

なお、当社グループは、創立100周年を迎える2024年に向けた中長期戦略である「長期ビジョン100」の実現、その第一ステップとなる「中期経営計画2020」の達成に資するグループ経営方針を掲げ、引き続き当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の最大化を目指してまいります。

2020年度に売上高1,000億円、経常利益50億円、売上高経常利益率5%、1株当たり配当金10円、ROE10%以上の目標を掲げ、当社グループの企業価値向上に向けた経営を邁進してまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、「顧客志向」と「収益志向」を両輪として「将来価値の共創」に向けた経営方針に則り、グループの中長期戦略を描いた「長期ビジョン100」を策定し、グループの持続的成長及び中長期的な企業価値最大化の実現を目指してまいります。

「長期ビジョン100」は、企業理念に基づくグループの使命・将来像を描いた7つの指針と、これを実現するに当たっての最重要課題である5本の柱で構成されております。

< 7つの指針 >

- ①顧客重視の経営
- ②収益重視の経営
- ③株主重視の経営
- ④グループ全体最適化
- ⑤経営監督機能の強化
- ⑥強固な財務体質の確立
- ⑦社会的良識を意識した経営

< 5本の柱 >

- ①焼酎事業に集中
 - ・焼酎に経営資源を集中
 - ・焼酎事業の拡大
- ②アルコール事業販売の拡大
 - ・販売シェアNo. 2を目指す
 - ・アルコール増産に向けた設備投資
 - ・新分野への積極的な販路拡大
- ③生産改革
 - ・東西の生産物流拠点確立を目的としたグループ工場再編
- ④酵素医薬品事業の新展開
 - ・新たな取組み（新たなラクターゼを上市、発酵技術を活かした生産支援ビジネス）
 - ・酵素医薬品事業の拡大
- ⑤CRE戦略
 - ・銀座ビルの「不動産価値」活用
 - ・遊休不動産の活用

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループは、「中期経営計画2020」の目標達成に向け、グループ経営方針を定め、その実践に取り組んでまいります。主要事業である酒類事業及び酵素医薬品事業についての経営方針の主な内容は以下のとおりです。

コア事業である酒類事業では、「顧客起点の発想」に立った商品開発を実践し、潜在的なニーズに踏み込んだ魅力的な新商品を市場に投入することで、顧客満足と利益の最大化を実践してまいります。

また、地域で強みを発揮することのできる「ローカルブランド(LB)」を新機軸として注力していくほか、各地域特性を十分に考慮した「エリアマーケティング戦略」の実行、強化ブランドの明確化により、経営資源を集中的に投下し、将来価値につながるマーケティングを実行してまいります。

酵素医薬品事業では、主力の乳糖分解酵素（ラクターゼ）のさらなる拡大を目指し、新商品を発売するほか、新規生産支援ビジネスの獲得に向けた設備投資など事業規模拡大に向け、積極的な事業展開を図ってまいります。

このほかにも、平成28年3月に制定した「コーポレートガバナンスに関する基本方針」に基づいた活動を実践し、経営の意思決定過程の透明性・公正性を担保してまいります。この基本方針を前提とした迅速・果断な意思決定を促すことができるコーポレートガバナンス体制の強化に取り組んでまいります。

4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの利害関係者の多くは、国内の株主、債権者、取引先等であり、海外からの資金調達の実現性が乏しいため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

5. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,888	1,334
受取手形及び売掛金	19,791	20,454
商品及び製品	6,264	6,166
仕掛品	192	220
原材料及び貯蔵品	1,151	1,210
繰延税金資産	623	649
前払費用	116	104
その他	495	386
貸倒引当金	△23	△11
流動資産合計	30,500	30,515
固定資産		
有形固定資産		
建物	20,095	20,288
減価償却累計額	△14,627	△14,744
建物（純額）	5,468	5,544
構築物	5,206	5,237
減価償却累計額	△3,997	△4,115
構築物（純額）	1,208	1,122
機械装置及び運搬具	32,392	31,542
減価償却累計額	△29,361	△28,823
機械装置及び運搬具（純額）	3,030	2,719
工具、器具及び備品	1,909	1,869
減価償却累計額	△1,791	△1,762
工具、器具及び備品（純額）	118	107
土地	8,825	9,851
リース資産	127	174
減価償却累計額	△60	△91
リース資産（純額）	66	82
建設仮勘定	21	1,558
有形固定資産合計	18,739	20,985
無形固定資産		
借地権	11	11
のれん	264	200
ソフトウェア	107	85
その他	215	173
無形固定資産合計	598	470

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1,826	1,905
長期前払費用	172	128
繰延税金資産	255	239
その他	224	225
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	2,471	2,491
固定資産合計	21,809	23,947
資産合計	52,310	54,463

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,234	5,446
電子記録債務	1,172	1,275
短期借入金	3,060	3,100
リース債務	23	34
未払金	4,244	4,320
未払酒税	8,881	9,338
未払消費税等	785	801
未払法人税等	412	245
賞与引当金	61	60
役員賞与引当金	54	41
未払費用	231	205
預り金	312	320
設備関係支払手形	140	191
設備関係電子記録債務	19	1,722
その他	81	130
流動負債合計	24,714	27,236
固定負債		
長期借入金	1,600	800
長期預り金	3,192	3,169
リース債務	43	48
退職給付に係る負債	1,295	1,284
役員株式給付引当金	—	15
資産除去債務	122	122
その他	401	486
固定負債合計	6,654	5,927
負債合計	31,369	33,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,946	6,946
資本剰余金	5,580	5,594
利益剰余金	6,411	7,240
自己株式	△759	△1,194
株主資本合計	18,179	18,587
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	542	590
繰延ヘッジ損益	81	11
退職給付に係る調整累計額	△42	△8
その他の包括利益累計額合計	581	593
非支配株主持分	2,179	2,119
純資産合計	20,940	21,300
負債純資産合計	52,310	54,463

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	79,212	78,739
売上原価	64,021	63,901
売上総利益	15,191	14,838
販売費及び一般管理費	13,111	12,985
営業利益	2,079	1,853
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	28	30
受取賃貸料	81	81
為替差益	-	36
雑収入	49	59
営業外収益合計	159	208
営業外費用		
支払利息	116	93
操業休止等経費	180	37
為替差損	37	-
雑損失	22	23
営業外費用合計	356	154
経常利益	1,882	1,906
特別利益		
固定資産売却益	84	7
受取保険金	44	-
その他	6	-
特別利益合計	135	7
特別損失		
固定資産除売却損	45	34
減損損失	616	-
事業再編損失	-	218
その他	9	6
特別損失合計	671	259
税金等調整前当期純利益	1,346	1,655
法人税、住民税及び事業税	587	326
法人税等調整額	69	69
法人税等合計	657	396
当期純利益	689	1,258
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	78	△4
親会社株主に帰属する当期純利益	610	1,263

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
当期純利益	689	1,258
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△97	49
繰延ヘッジ損益	94	△70
退職給付に係る調整額	31	33
その他の包括利益合計	28	12
包括利益	717	1,271
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	638	1,274
非支配株主に係る包括利益	78	△3

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	6,946	5,576	6,239	△565	18,196
当期変動額					
剰余金の配当			△439		△439
親会社株主に帰属する当期純利益			610		610
自己株式の取得				△194	△194
自己株式の処分		0		0	0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		4			4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	4	171	△193	△17
当期末残高	6,946	5,580	6,411	△759	18,179

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	639	△11	△73	554	2,118	20,869
当期変動額						
剰余金の配当						△439
親会社株主に帰属する当期純利益						610
自己株式の取得						△194
自己株式の処分						0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△96	93	31	27	61	89
当期変動額合計	△96	93	31	27	61	71
当期末残高	542	81	△42	581	2,179	20,940

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	6,946	5,580	6,411	△759	18,179
当期変動額					
剰余金の配当			△434		△434
親会社株主に帰属する当期純利益			1,263		1,263
自己株式の取得				△434	△434
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		13			13
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	13	829	△434	407
当期末残高	6,946	5,594	7,240	△1,194	18,587

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	542	81	△42	581	2,179	20,940
当期変動額						
剰余金の配当						△434
親会社株主に帰属する当期純利益						1,263
自己株式の取得						△434
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						13
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	48	△70	33	11	△59	△48
当期変動額合計	48	△70	33	11	△59	359
当期末残高	590	11	△8	593	2,119	21,300

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,346	1,655
減価償却費	1,806	1,560
減損損失	616	-
のれん償却額	63	63
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△178	△11
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	80	-
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	△12
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	-	15
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	13	△12
受取利息及び受取配当金	△28	△30
支払利息	116	93
固定資産売却益	△84	△7
固定資産除売却損	45	34
事業再編損失	-	218
受取保険金	△44	-
売上債権の増減額 (△は増加)	2,101	△662
たな卸資産の増減額 (△は増加)	317	11
仕入債務の増減額 (△は減少)	△399	314
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△272	16
未払酒税の増減額 (△は減少)	△627	457
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△44	18
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△279	2
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△512	△21
その他	51	48
小計	4,095	3,752
利息及び配当金の受取額	28	30
利息の支払額	△125	△102
保険金の受取額	44	-
法人税等の支払額	△819	△558
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,224	3,122

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4	△4
定期預金の払戻による収入	4	4
固定資産の取得による支出	△715	△1,932
固定資産の除売却による収支 (△は支出)	59	7
地方自治体からの補助金による収入	188	-
投資有価証券の取得による支出	△7	△7
その他	△60	△41
投資活動によるキャッシュ・フロー	△535	△1,973
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△950	50
長期借入金の返済による支出	△850	△810
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△21	△31
自己株式の取得による支出	△1	△141
配当金の支払額	△439	△434
非支配株主への配当金の支払額	△3	△12
自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出	△200	△300
自己株式取得目的の金銭の信託の終了による収入	-	10
その他	△1	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,468	△1,703
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	220	△554
現金及び現金同等物の期首残高	1,662	1,883
現金及び現金同等物の期末残高	1,883	1,329

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結されています。

当該連結子会社は、合同酒精(株)、福德長酒類(株)、富久娘酒造(株)、秋田県醗酵工業(株)、越の華酒造(株)、(株)サニーマイズ、山信商事(株)、(株)ワコー、ゴーテック(株)、(株)オエノンアセットコーポレーションの10社であります。

なお、富久娘酒造株式会社は平成30年1月1日付でオエノンプロダクトサポート株式会社に商号を変更しております。

2 持分法の適用に関する事項

該当する会社はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

イ 時価のあるもの…連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)

ロ 時価のないもの…移動平均法による原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

イ 商品、製品、半製品、原材料、仕掛品

総平均法による原価法

ロ 販売用不動産

個別法による原価法

ハ 貯蔵品

移動平均法による原価法

③ デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しています。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

構築物 3年～60年

機械装置及び運搬具 2年～10年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうちリース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引の取扱いについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

- ④ 長期前払費用の償却方法
効果継続期間(2～5年)内均等償却法
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金
一部の連結子会社は従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ③ 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う額を計上しております。
- ④ 役員株式給付引当金
株式給付規定に基づく取締役への当社株式の交付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により、発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により、費用処理することとしております。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用
当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は営業外損益として処理しております。
- (6) 重要なヘッジ会計の方法
- ① ヘッジ会計の方法
- イ 為替予約
振当処理によっております。なお、外貨建予定取引に係る為替予約については繰延処理を行っております。
- ロ 金利スワップ
金融商品に関する会計基準に定める特例処理によっております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
- イ ヘッジ手段
為替予約取引・金利スワップ取引
- ロ ヘッジ対象
外貨建金銭債権債務・借入金利息
- ③ ヘッジ方針
当社グループは、資産・負債の総合的管理の手段として、また金融市場の為替変動リスクや金利変動リスクに対する手段として、デリバティブ取引を利用しております。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法
為替予約取引については、ヘッジ対象取引との通貨単位、取引金額及び決済期日等の同一性について、社内管理資料に基づき有効性評価を行っております。
また、金利スワップ取引については、ヘッジ対象取引のリスク分析を行い、ヘッジ対象取引との想定元本、利息の受払条件及び契約期間等の同一性について、社内管理資料に基づき有効性評価を行っております。

⑤ その他

当社グループにおけるデリバティブ取引は社内規程に従って、リスクヘッジ目的に限って行っており、経営戦略企画室が専属的にその実行及び管理を行っております。

取引の実行にあたっては、当該規程に定められた目的、取引極度額の下、個々の取引について担当役員の決裁に基づいて行っております。また、日常のチェックについては経営戦略企画室内の報告及び担当役員の定期的検証により行っております。さらに取引残高、損益状況等の利用実績については、定期的に取り締役に報告がなされております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、20年間の均等償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は税抜処理の方法によっております。

連結納税制度の適用

当連結会計年度より、連結納税制度を適用しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「流動負債」の「設備関係支払手形」に含めて表示していた「設備関係電子記録債務」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

当該表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の「設備関係電子記録債務」は19百万円となり、「設備関係支払手形」から組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示していた「自己株式の取得による支出」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

当該表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の「自己株式の取得による支出」は△1百万円となり、「その他」から組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

退職給付債務の算定に当たり未認識数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)による定額法により費用処理を行っていましたが、当連結会計年度より12年に変更しております。なお、この変更による営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は33百万円減少しております。

(追加情報)

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度より適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 連結会計年度末日満期手形の会計処理

連結会計年度末日満期手形の会計処理については手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、期末残高に含まれています。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
受取手形	20百万円	57百万円
支払手形	20	23
設備関係支払手形	—	2

2 担保資産及び担保付債務

担保資産

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
建物	2,136百万円	1,930百万円
土地	1,601	1,601
計	3,737	3,531

担保付債務

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
短期借入金	2,250百万円	2,300百万円
長期借入金	2,410	1,600
(うち一年以内返済分)	(810)	(800)
計	4,660	3,900

3 偶発債務

(1) 保証債務

連結子会社以外の会社等の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
従業員	3百万円	3百万円

(2) 先物買入契約

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
容器	281百万円	194百万円
粗留アルコール	2,757	2,719
原料	66	50
輸入原酒	111	173
計	3,216	3,138

4 債権流動化

債権譲渡契約に基づく債権流動化を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
受取手形裏書譲渡残高	477百万円	416百万円
売掛金譲渡残高	5,971	6,062
計	6,448	6,478
上記債権流動化に伴う 買戻義務限度額	1,115百万円	1,233百万円

5 圧縮記帳

国庫補助金等の受入により圧縮記帳を行っている額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
圧縮記帳額	829百万円	一百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上原価	740百万円	674百万円

- 2 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
製品運賃保管料	4,125百万円	3,952百万円
広告宣伝費	279	339
販売促進費	925	895
給与・手当	2,540	2,527
賞与	801	834
役員賞与引当金	54	41
退職給付費用	217	238
福利厚生費	641	643
租税公課	325	445
業務委託費	38	41
減価償却費	224	183
のれんの償却額	63	63
賃借料	482	467

- 3 固定資産売却益の主要な内訳

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
機械装置	15百万円	7百万円
土地	68	—
計	84	7

- 4 固定資産除売却損の主要な内訳

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
建物	24百万円	13百万円
構築物	3	0
機械装置及び運搬具	16	20
その他	0	0
計	45	34

5 減損損失の主要な内訳

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

当社グループは当連結会計年度において以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	金額
北海道苫小牧市	バイオエタノール設備	建物等	579百万円
山梨県韮崎市	福利厚生施設	建物等	11
静岡県静岡市	酒類設備	機械装置等	6
福岡県久留米市	酒類設備	機械装置等	18

当社グループは、主として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分(事業別)を単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、バイオエタノール設備は酒類事業の生産設備としての活用計画を取り止めることになったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しています。また、福利厚生施設及び酒類設備については、将来の使用見込がなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額及び撤去費用を減損損失として計上しています。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

6 事業再編損失の主要な内訳

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

事業再編損失は、酒類事業の再編に伴う損失であり、主な内訳は、人事関連費用69百万円、減損損失74百万円、解体撤去費用70百万円、その他4百万円であります。

(減損損失)

場所	用途	種類	金額
兵庫県神戸市	酒類設備	機械装置等	74百万円

当社グループは、主として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分(事業別)を単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、効率的なグループ経営を実施するため、富久娘酒造株式会社の清酒事業を福徳長酒類株式会社に移管することに伴い使用見込がなくなった一部の処分見込資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しています。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

7 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
研究開発費	470百万円	506百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	65,586,196	—	—	65,586,196

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,849,141	719,594	1,753	3,566,982

(変動事由の概要)

会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される
同法第156条の規定に基づく自己株式取得による増加 712,000株
単元未満株式の買取りによる増加 7,594株

減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による売渡 1,753株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年3月23日 定時株主総会	普通株式	439	7	平成27年12月31日	平成28年3月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	434	7	平成28年12月31日	平成29年3月24日

当連結会計年度(自平成29年1月1日至平成29年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	65,586,196	—	—	65,586,196

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,566,982	1,588,111	—	5,155,093

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される
同法第156条の規定に基づく自己株式取得による増加 1,088,000株
株式給付信託による増加 495,200株
単元未満株式の買取りによる増加 4,911株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年3月23日 定時株主総会	普通株式	434	7	平成28年12月31日	平成29年3月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	426	7	平成29年12月31日	平成30年3月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	1,888百万円	1,334百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△4	△4
現金及び現金同等物	1,883	1,329

(セグメント情報等)

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分及び評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは製品・サービス等を基礎としたセグメントから構成されており、「酒類」、「加工用澱粉」、「酵素医薬品」、「不動産」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

各報告セグメントの主な製品・サービスは、次のとおりであります。

事業区分	主な製品・サービス
酒類	焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒、ワイン、酒類原料用・工業用アルコール、調味料、食品(副産物)、飲食店経営
加工用澱粉	加工用澱粉
酵素医薬品	酵素、原薬、診断薬
不動産	不動産の売買、不動産の賃貸

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	合計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	71,358	3,982	3,521	329	79,192	20	—	79,212
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	13	—	—	—	13	—	△13	—
計	71,372	3,982	3,521	329	79,205	20	△13	79,212
セグメント利益	723	352	769	227	2,073	6	—	2,079
セグメント資産	42,630	2,787	3,387	817	49,623	15	2,671	52,310
その他の項目								
減価償却費	1,471	67	187	16	1,743	0	63	1,806
減損損失	616	—	—	—	616	—	—	616
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	839	56	60	—	956	—	6	962

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額の内容は、以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額△13百万円は、セグメント間の取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額2,671百万円には、セグメント間取引消去△0百万円及び全社資産2,672百万円が含まれております。全社資産の主なものは、余資運用資金(現金及び預金)、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額63百万円は全社資産に係る減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額6百万円は全社資産に係る増加額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	合計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	70,450	3,772	4,162	334	78,719	20	—	78,739
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	—	—	—	10	—	△10	—
計	70,461	3,772	4,162	334	78,730	20	△10	78,739
セグメント利益	211	241	1,155	234	1,843	10	—	1,853
セグメント資産	43,413	2,841	3,420	766	50,442	8	4,012	54,463
その他の項目								
減価償却費	1,199	73	196	16	1,485	0	74	1,560
減損損失	74	—	—	—	74	—	—	74
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,771	98	468	—	2,338	—	1,437	3,776

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額の内容は、以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額△10百万円は、セグメント間の取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額4,012百万円には、セグメント間取引消去△0百万円及び全社資産4,013百万円が含まれております。全社資産の主なものは、余資運用資金(現金及び預金)、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額74百万円は全社資産に係る減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額1,437百万円は全社資産に係る増加額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり純資産額	302円50銭	317円39銭
1株当たり当期純利益	9円75銭	20円82銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(百万円)	20,940	21,300
普通株式に係る純資産額(百万円)	18,761	19,180
連結貸借対照表の純資産の部の合計額と1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式に係る連結会計年度末の純資産額との差額の主な内訳(百万円)		
非支配株主持分	2,179	2,119
普通株式の発行済株式数(千株)	65,586	65,586
普通株式の自己株式数(千株)	3,566	5,155
1株当たりの純資産の算定に用いられた普通株式の数(千株)	62,019	60,431

- 3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	610	1,263
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	610	1,263
普通株式の期中平均株式数(千株)	62,673	60,678

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

平成29年12月期 決算参考資料

1. 要約連結損益計算書
2. セグメント別売上高
3. 利益増減要因
4. 要約連結貸借対照表
5. 連結業績予想
6. 予想売上高

オエノンホールディングス株式会社

平成30年2月9日

1. 要約連結損益計算書

百万円未満切捨て

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減(△)	前年対比(%)
	自平成28年1月1日 至平成28年12月31日	自平成29年1月1日 至平成29年12月31日		
酒類事業	71,358	70,450	△ 908	98.7
加工用澱粉事業	3,982	3,772	△ 209	94.7
酵素医薬品事業	3,521	4,162	640	118.2
不動産事業その他	350	354	4	101.2
売上高	79,212	78,739	△ 472	99.4
売上原価	64,021	63,901	△ 120	99.8
売上総利益	15,191	14,838	△ 352	97.7
販売費及び一般管理費	13,111	12,985	△ 126	99.0
酒類事業	723	211	△ 512	29.2
加工用澱粉事業	352	241	△ 111	68.5
酵素医薬品事業	769	1,155	386	150.3
不動産事業その他	234	244	10	104.5
営業利益	2,079	1,853	△ 226	89.1
営業外収益	159	208	48	130.5
営業外費用	356	154	△ 201	43.4
経常利益	1,882	1,906	24	101.3
特別利益	135	7	△ 128	5.7
特別損失	671	259	△ 412	38.6
税金等調整前当期純利益	1,346	1,655	308	122.9
法人税等合計	657	396	△ 260	60.3
当期純利益	689	1,258	569	182.6
非支配株主に帰属する当期純利益	78	△ 4	△ 83	-
親会社株主に帰属する当期純利益	610	1,263	652	206.8
1株当たり当期純利益※円	9.75	20.82	11.07	213.5
設備投資額	925	3,748	2,822	404.9

2. セグメント別売上高

百万円未満切捨て

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減(△)	前年対比(%)
	自平成28年1月1日 至平成28年12月31日	自平成29年1月1日 至平成29年12月31日		
焼酎	39,427	39,631	204	100.5
（甲類焼酎）	(15,797)	(15,310)	(△486)	(96.9)
（乙類焼酎）	(23,630)	(24,320)	(690)	(102.9)
チューハイ	7,138	6,517	△620	91.3
清酒	5,908	5,431	△477	91.9
合成清酒	3,197	3,001	△195	93.9
アルコール	7,368	7,526	157	102.1
みりん	514	480	△34	93.4
洋酒	6,560	6,648	87	101.3
その他	1,243	1,213	△29	97.6
酒類計	71,358	70,450	△908	98.7
加工用澱粉	3,982	3,772	△209	94.7
酵素医薬品	3,521	4,162	640	118.2
不動産	329	334	5	101.6
その他	20	20	△0	95.9
合計	79,212	78,739	△472	99.4

3. 利益増減要因

百万円未満切捨て

	利益増減(△)	主な増減要因
酒類事業	△ 512	原材料コストの上昇による原価増△470 売上高減少による総利益減△150 棚卸資産処分費など製造経費の減+210 製品構成の影響等△102
加工用澱粉事業	△ 111	売上高の減少
酵素医薬品事業	386	売上高の増加(輸出酵素、生産支援ビジネス)
不動産事業その他	10	
営業利益	△ 226	
営業外収益	48	
営業外費用	201	為替差損、操業休止等経費の減
経常利益	24	
特別利益	△ 128	固定資産売却益、受取保険金の減少
特別損失	412	減損損失の減少
税金等調整前当期純利益	308	
法人税等	260	
当期純利益	569	
非支配株主に帰属する当期純利益	83	
親会社株主に帰属する当期純利益	652	

4. 要約連結貸借対照表

百万円未満切捨て

	前連結会計年度 平成28年12月31日	当連結会計年度 平成29年12月31日	増減(△)	前年対比 (%)	主な増減要因
(資産の部)					
現金及び預金	1,888	1,334	△ 554	70.7	
受取手形及び売掛金	19,791	20,454	662	103.3	第4四半期会計期間の売上高増
たな卸資産	7,609	7,597	△ 11	99.8	
繰延税金資産	623	649	26	104.2	
その他	611	491	△ 120	80.3	
貸倒引当金	△ 23	△ 11	12	-	
流動資産合計	30,500	30,515	15	100.1	
建物	5,468	5,544	76	101.4	
土地	8,825	9,851	1,026	111.6	
その他	4,446	5,589	1,143	125.7	
有形固定資産計	18,739	20,985	2,245	112.0	
無形固定資産	598	470	△ 127	78.7	
投資有価証券	1,826	1,905	78	104.3	
長期前払費用	172	128	△ 43	74.5	
繰延税金資産	255	239	△ 16	93.5	
その他	224	225	1	100.7	
貸倒引当金	△ 7	△ 7	0	-	
投資その他の資産計	2,471	2,491	19	100.8	
固定資産合計	21,809	23,947	2,138	109.8	
資産合計	52,310	54,463	2,153	104.1	

	前連結会計年度 平成28年12月31日	当連結会計年度 平成29年12月31日	増減(△)	前年対比 (%)	主な増減要因
(負債の部)					
支払手形及び買掛金	6,407	6,721	314	104.9	
短期借入金	3,060	3,100	40	101.3	
未払金	4,244	4,320	76	101.8	
未払酒税	8,881	9,338	457	105.1	第4四半期会計期間の売上高増
その他	2,121	3,754	1,633	177.0	設備支払手形の増
流動負債合計	24,714	27,236	2,521	110.2	
長期借入金	1,600	800	△ 800	50.0	
その他	5,054	5,127	72	101.4	
固定負債合計	6,654	5,927	△ 727	89.1	
負債合計	31,369	33,163	1,794	105.7	
(純資産の部)					
資本金	6,946	6,946	-	100.0	
資本剰余金	5,580	5,594	13	100.2	
利益剰余金	6,411	7,240	829	112.9	
自己株式	△ 759	△ 1,194	△ 434	-	自己株式の取得による減
株主資本合計	18,179	18,587	407	102.2	
その他有価証券評価差額金	542	590	48	108.9	
繰延ヘッジ損益	81	11	△ 70	13.7	
退職給付に係る調整累計額	△ 42	△ 8	33	-	
その他の包括利益累計額合計	581	593	11	101.9	
非支配株主持分	2,179	2,119	△ 59	97.2	
純資産合計	20,940	21,300	359	101.7	
負債純資産合計	52,310	54,463	2,153	104.1	

自己資本比率※%	35.9	35.2	△ 0.7		
----------	------	------	-------	--	--

5. 連結業績予想

百万円未満切捨て

	当連結会計年度 自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	翌連結会計年度 自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日	増減(△)	前年対比(%)
酒類事業	70,450	71,601	1,151	101.6
加工用澱粉事業	3,772	3,760	△ 12	99.7
酵素医薬品事業	4,162	4,290	128	103.1
不動産事業その他	354	347	△ 7	97.9
売上高	78,739	80,000	1,260	101.6
売上原価	63,901	64,958	1,056	101.7
売上総利益	14,838	15,042	203	101.4
販売費及び一般管理費	12,985	13,092	106	100.8
酒類事業	211	319	107	150.9
加工用澱粉事業	241	215	△ 26	88.9
酵素医薬品事業	1,155	1,185	29	102.5
不動産事業その他	244	231	△ 13	94.3
営業利益	1,853	1,950	96	105.2
営業外損益	53	0	△ 53	-
経常利益	1,906	1,950	43	102.3
特別損益	△ 251	△ 250	1	-
税金等調整前当期純利益	1,655	1,700	44	102.7
法人税等合計	396	631	234	159.2
当期純利益	1,258	1,068	△ 190	84.9
非支配株主に帰属する当期純利益	△ 4	68	73	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,263	1,000	△ 263	79.2

6. 予想売上高

百万円未満切捨て

	当連結会計年度	翌連結会計年度	増減(△)	前年対比(%)
	自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日		
焼 酎	39,631	40,489	858	102.2
(甲 類 焼 酎)	(15,310)	(15,612)	(302)	(102.0)
(乙 類 焼 酎)	(24,320)	(24,876)	(556)	(102.3)
チ ュ ー ハ イ	6,517	6,790	273	104.2
清 酒	5,431	5,410	△ 21	99.6
合 成 清 酒	3,001	2,989	△ 12	99.6
ア ル コ ー ル	7,526	7,533	6	100.1
み り ん	480	477	△ 3	99.4
洋 酒	6,648	6,709	61	100.9
そ の 他	1,213	1,201	△ 11	99.1
酒 類 計	70,450	71,601	1,151	101.6
加 工 用 澱 粉	3,772	3,760	△ 12	99.7
酵 素 医 薬 品	4,162	4,290	128	103.1
不 動 産	334	326	△ 8	97.6
そ の 他	20	20	0	102.9
合 計	78,739	80,000	1,260	101.6